

吉野ヶ里こども園の教育・保育とは！？

—夏の暑さを楽しむ7月、プール・水遊び—

園長 山崎立哉

今年の梅雨入りは、例年にない早い梅雨入りでしたが、最近では晴天の日が続き、梅雨の中休みの日が続きます。これから梅雨本番を迎えますが、大雨には十分注意してお過ごしいただきます様お願い致します。

7月に入り、子どもたちの大好きな遊びは何ととってもプール・水遊びです。3・4・5歳児は6月にプール開きをしてさっそく水遊びを始めています。他にも泥んこ遊び、田植え、雨合羽を着ての雨の日の散歩など、この時期ならではの水遊びを思う存分楽しんでいきます。

このように、夏になると子どもたちは水と触れ合って遊びたがるようになりますが、その理由の一番は「気持ちよさ」です。子どもたちの遊びの中で最初のベースになるものとして「感覚遊び」というのがあります。目や耳、皮膚感覚など、五感を通して自然物と接していく中で、様々な物事に対する認識を深めていきます。そんな遊びの中で、水は子どもの感覚を磨いてくれる万能素材です。

夏の暑い時期、水に触れるだけで心地良かったり、水温の変化を感じることできます。時には水のしずくが光に反射してキラキラ輝くのを見たりするだけでも、幼児期の子どもたちはその「不思議さ」や「美しさ」と出会えます。子どもが1歳くらいになると、水道の流れる水を手のひらで受けてジューッと眺めたりするようになりますが、それは水という素材を五感を使って理解するためにやっていることで、水を知る原体験になっています。

五感を通した水遊びは、「楽しい」「面白い」「不思議だ」と感じる心を豊かにすることが何より大事なことです。そのためには、この暑い時期「冷たい水は気持ちいいものだ」と子ども自身が感じる事が重要です。

私の小さい頃（50年以上前）は、プールはなく専ら川や堀で水遊びをしていましたが、水がとて冷たく気持ちよく、川の流れがゆっくりだったり急だったり、川の中で魚を捕まえたり、シジミを獲ったりしてとても楽しい思い出があり、それが原体験として記憶に残っています。

子どもたちも、暑い夏に思いっきり水遊びをして、水の「気持ちいい」「楽しい」「面白い」「不思議だ」を五感で感じ、原体験として残してほしいと願っています。